

2025/10/1 (水)

朝の礼拝

聖書 コヘレトの言葉 3章 11節 (新約聖書 1022頁)

神はすべてを時に適って麗しく造り、永遠を人の心に与えた。だが、神の行った業を人は初めから終わりまで見極めることはできない。

手漕ぎボート

わたしたちは自分の過去は自分の後ろに、そして自分の未来は自分の前にあると思っています。でもよく考えてみると、未来が自分の前にあると思いつつながら自分の未来が見えている人は誰もいません。見てきたと思っているのは昨日までの自分、過去の自分だけです。だから人生を航海で喩えるならば、人生は“手漕ぎボート”を漕いでいるようなものです。

人生は進行方向に背を向け、自分が漕いだ航跡を見つめ、時々めざす目的を確認しているようなものです。それは波のない凧のような時ならいいですが、潮の流れや風の強弱によって知らないうちに流され、蛇行した航跡がその厳しさを物語ります。そして抗うように漕ぎ続けられないように、人は人生を初めから終わりまで自分の思うようにはできないのです。

そもそも進行方向に背を向けている、行き先がわからないのは不安です。ただ聖書は、私たちが漂流しているわけではないと言っています。今日の冒頭で「神はすべてを時に適って麗しく造り」と言っています。形や中身が良いとか、整然と秩序正しいという意味ではありません。ひと口で言えば、あなたがどんなに漂流してもあなたは愛され、守られているという意味です。

そして「永遠を人の心に与えた」とあります。実はある英訳聖書では「永遠」を *ignorance* と訳しています。「無知」という意味です。「暗闇」「謎」と解釈する人もいますが、私は「祈り」だと感じました。明日もわからない自分だけど、愛されていると信じ、互いに慰め励まし、すべてを委ねる祈りができることは自分の力ではなく、恵みそのものだからです。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたの計り知れない御恵みに感謝します。今日から10月、今年もあと三か月となりました。高校三年生は実質毎日学校へ来るのもあとわずかです。そして今週は前期最後の週となり、本年度の学びも折り返しを迎えました。すべてをあなたに委ねなさいとのみ言葉から始まった本年度でしたが、日々の祈りの時を恵みとして与えられたにもかかわらず、淡い期待やあこがれに流され、日々の感謝と祈りの時をおろそかにし、無為に過ごしたことも少なくなかったことを悔やみます。どうか短い間ですが心身共にいたわり、よきふり返りと後期の備えの時を過ごさせてください。そしていまだ世界各地の災害、激しい争いにある人々を覚えて祈ります。どうかわたしたちを平和の器として用いてください。また心身に苦しみを覚える家族、友人を覚えて祈ります。どうかその艱難を耐え、御心ならばひと時でも早く回復の時を与え、共に喜びと感謝を献げることができますように導いてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン